



対談インタビュー

統一選挙後の初議会が5月7日に開会され、新たな議会組織が構成されました。今回の選挙において、本町議会議員選挙では2度目の無投票となった今、新しい議会をどのように方向付けるのか。新たな議会のリーダーに選任された、笹木正文議長、安中経人副議長に今期4年の思いをインタビューしました。

町民密着型の 議会を目指す！

質問
今回の選挙が無投票だったことに関してどう思いましたか？

笹木議長
前任期中、議員定数等調査特別委員会で議会のあるべき姿を様々な視点から取り組んできたが、結果無投票であった。同じテーマで取り組んでいた浦幌町や芽室町では立候補者が定数をオ

ーバーし選挙となっていることを考えると、何か足りなかったのではと感じる。議会の活性化に向けた取り組みをしつかり行い、4年後に向け、やるだけのことばやらなければならないと感じている。

安中副議長

投票により選任するということが原則であるが、無投票という選任の方法も法律上あるという認識を皆が持つ必要がある。住民側が地方自治に関心を持ち、耳を傾け参加してくるための底上げをすべき。住民意識を高めることにより選挙権のある者が選挙に立候補してくると考える。デリケートに考えるのではなく、原点にある課題の洗い出しをし、住民意識を高める仕掛けをしていかなければならないと感じる。

笹木議長

無投票も選任方法の一つという話があったが、定数を決める権限が議会側



にある以上、議会は常にこの問題に取り組むべき。本町の議員報酬額は、改定後空知の町議会が一番上位になった今、報酬額をさらに検討することはない。定数は行政区の数に合わせて11人にしたという考えもあったが、再度検討しなければならないと考える。

今回は特に選挙権が18歳以上になって初めての一番身近な選挙で投票でき